

2023年11月1日(水) 札幌バプテスト教会 祈禱会

本日の聖書箇所: ヘブル人への手紙 11:1~3 (口語訳:新約 354 頁)

- ・ 「『信仰』とは何ぞや？」を考える時、今日の11章1節が取り上げられることが多いと思います。「信仰とは、望んでいる事がらを確認し、まだ見ていない事実を確認することである」と、この手紙の著者は言うのです。どのような文脈の中で「信仰とは・・・」というくだりが語られたのでしょうか。直前の10章39節では「わたしたちは、ひるんで滅びる者ではなく、信仰によって命を確保する者です。」(新共同訳)とあります。「ひるまない」歩みがどのような歩みであるかを説明しているのが、11章1節であると言えるでしょう。
- ・ そもそも私たちはなぜひるむのでしょうか？テレビをつければ紛争や災害の報道が目立ちます。それらがあまりにも頻繁に起きるために、昨日まで熱心に関心を向けていた出来事が、新しく他の出来事で更新され続ける日々を送っているように思えてなりません。または、身近なことで言えば、思いがけない病や不幸を患った時、自分の不十分さに気づかされる時、どういうわけか失敗を繰り返す時・・・様々なことが思い浮かびます。そう考えると私たちをひるませるものは絶えません。そしてそれらに共通することは、理想が崩されてしまうからなのでしょう。
- ・ この手紙が宛てられた教会もひるみ続けていたと言えると思います。そうでなければ、このような言葉は生まれなかったでしょうし、それゆえにこの手紙の内容が伝えられなくてはいけなかったのです。「ひるまないようにしましょう。今、目の前の現実理想を裏切るようであっても、それでも、私たちの主なる神さまは生きて働いておられる。この望みに生きよう！」という励ましのメッセージが手紙で送られてきたのです。そしてこの言葉が、聖書に耳を傾ける数えきれない人々を二千年間元気づけてきたのです。
- ・ 1節と3節で「見る」と「見えない」とについて語っています。これらを語ることによって、著者は何を伝えようとしたのでしょうか。3節にはこうあります、「見えるものは、目に見えているものからできたのではない」と(新共同訳)。つまり「見えるものは見えないものに支えられている」こと・・・「見えるものが全てを物語っているのではない」と言うのです。このことに気づくことが信仰の知恵です。「信仰とは、目に見えるものによって奪われない心の芯を持ち続けることだ」と耳にしたことがあります、本当にそうだと思います。
- ・ 奪われず、揺るがない心の芯・・・そのような堅い信仰は私には持ち得ないと思うのが自然かもしれませんが、でも、そもそも「奪われない心の芯」というものは自分の中から芽生えるものなのでしょうか。1節に「信仰とは、望んでいる事がらを確認し」とありますが、この「確信」という言葉は「何かの下にある」という基本的な意味を持ちます。それが下にあるために、上のものが支えられているということです。私たち一人一人も含めて、皆を支える「下にあるもの」は何でしょう？聖書に言わせれば、それは十字架にかけられたイエスキリストです。神に等しい御子イエスが、ひるむ私たちを支え救うために、十字架にまで降ったのです。そして、そこから、復活させられたのです。十字架と復活の主イエスが堅く立ち続けてくださる・・・このイエスさまに支えられているのです。このことを思う時、「堅く信じなければ」という肩の力がスッと抜け、希望をもって今日から明日へ向かって行ける励ましを受ける・・・このメッセージが聴こえてくるのです。(西本詩生)

《祈りのリクエスト》

- | | |
|----------------------------|--|
| ① 教会の伝道の働き・教会財政のために。 | ⑧ 弁当分かち合いプロジェクト(毎週金曜)。 |
| ② バプテスマ・入会準備中の方々。 | ⑨ 各神学校と神学生のため。 |
| ③ 入院／療養中／高齢で来られない方々。 | ⑩ 道内の教会(無牧師の苦小牧)、
ハワイ・オリベット教会[姉妹教会]のため。 |
| ④ 誕生日・バプテスマを迎えた方々。 | ⑪ 日本と世界の平和のため(パレスチナ、ウクライナ、香港、ミャンマー)。被災地のため。 |
| ⑤ 主日礼拝(説教:西本牧師)
【主の晩餐式】 | ⑫ 困窮した生活を送っている人たち、孤独や
苦しみの中に置かれている人たちのため。 |
| ⑥ 「聖書を学び合う会」の活動のため。 | |
| ⑦ ひかり幼稚園の働きのため。 | |

《私の祈りのリクエスト》